

令和6年度 第1回 阿賀野市総合計画審議会 議事概要

1 会議の概要

日 時：令和6年8月30日（金）午後2:00～3:45

場 所：阿賀野市役所 別館3階 302会議室

出席者：【委員】

阿部委員、荒木委員、石黒委員、遠藤委員、坂詰委員、佐々木委員、
長谷川委員、原委員、横山委員

【市】

加藤市長、保科総務部長、吉川民生部長、阿部産業建設部長、
大橋商工観光課長、羽田学校教育課長

事務局：企画財政課（西潟課長、長峰課長補佐、中野室長、佐藤係長、
佐々木係長、山崎主事）

2 議事

- （1）会長及び副会長の互選について
- （2）諮問書の交付について
- （3）阿賀野市総合計画の進捗状況について（施策・基本事業評価の結果報告）
- （4）デジタル田園都市国家構想交付金事業の進捗状況について
- （5）阿賀野市過疎地域持続的発展計画について
- （6）新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業・物価高騰対応重点支援
地方創生臨時交付金事業の報告について
- （7）阿賀野市総合計画（次期総合計画）について

3 発言の内容（主な意見等（○：委員、●：市））

- （1）会長及び副会長の互選について
→委員の推薦により遠藤委員が会長に、会長からの指名で佐々木委員が副会長に
就任した。
- （2）諮問書の交付について
→加藤市長から遠藤会長に諮問書を交付した。
- （3）阿賀野市総合計画の進捗状況について（施策・基本事業評価の結果報告）
質疑なし

(4) デジタル田園都市国家構想交付金事業の進捗状況について

○デジタル田園都市国家構想交付金は、総合計画やまちづくり報告書に記載のある7つの政策をより有効に動かし、達成するためにあるものなのか。

また、この安田瓦を使った地場産業の振興と各種デジタル化も各施策にリンクして、阿賀野市のまちづくりを良くしていくための指標であり、その成果を審議会に報告しているものか。

●交付金について、こういった会議の場で成果報告をし、検証いただくことを前提としているので、この場を借りて報告させていただいている。

また、この報告をさせていただくことが、交付金をもらう条件にもなっている。

総合計画やまちづくり報告書との関連については、例えばデジタルであれば、総合計画の施策7、信頼される行政経営の7-1 行政経営の推進の中に行政デジタル化の推進という項目があるように、計画を意識して取り組んでいるところである。

○現在、地場産業の振興とデジタル化の推進を、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して取り組んでいるが、今後も継続する予定なのか。

●デジタル実装タイプの取り組みについては、毎年度何かしらの事業に取り組み、市のデジタル化を推進できればと考えている。

一方、地方創生タイプについては、現時点で令和6年度から、新たに取り組んでいる事業はなく、現状この事業1つで終了といったことになる。

○かわらティエにはお世話になっており、凄く良い施設ができたと思っている。

この指標を見ると、残念ながら集客等の目標を達成できていない状況であり、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したのにも関わらず、低下した指標もある。

個人的には、瓦ロードも綺麗になり、歩いている人も良く見かけるのだが、成果目標を達成するには至っていない。十分でないと考えられる要因について、どのように分析しているか。

●指標が順調でない理由としては、例えば安田瓦の職業訓練校への入校者数が、その年でバラつきがあることが考えられる。

瓦の出荷枚数についても指標は順調ではなく、今後瓦組合とも話し合いをしていくなかで、現行の制度だけで足りているのか、もっと住宅メーカー等にも働きかけていく必要があるのか検討していきたい。

来場者数については、観光協会として、AI デマンドバスの運行だとか、レンタサイクルを試験的に導入していく予定である。

○来場者については、瓦ロード全体での正確な来訪者数を出すことは難しく、概算になってしまい正確な数字は把握できていない。ただ、「かわらティエ」について

は来場者を把握しており、こちらは順調に推移している。これは、資料展示室の影響もあると考えており、燕市の産業資料館から外部講師を招き、リピートしたくなるような展示室を作っている。ただ、展示室が完成したのが令和5年の最後であったことも来訪者数が伸び悩んだことの要因の一つだと考えている。

職業訓練校の入校者数については、どこの業界も職人不足に悩んでいるなか、瓦葺きの技能士を取得してもらおうとしているが、現状なかなかうまくいっていない。この他にも地元の学生に夏休みのアルバイトとして、「かわらティエ」でアルバイトをしてもらっている。これは交流人口の拡大や就労促進、地元の産業を知ってもらう機会として募集した。多くの学生から申し出があったが、学校等の事情もあり、実際に働いてもらったのは1人だった。

○校務支援システムの導入により、今まで事務作業に割いていた時間を、学習指導や生徒指導などの教育活動に振り向けることで、児童・生徒がよりよい教育を受けることができる環境を整備するとあるが、KPIの教材研修の時間が増えた教員の割合は伸び悩んでいる。これについてどういった分析をしているか。

同様に、行政システムのオンライン化、各種申請や施設予約の電子化も、住民サービスの質の向上ということで取り組んでいるが、KPIの住民・事業者の利用率は目標を達成できていない。こちらについても、どう考えているのか。

●校務支援システムについては、令和5年度当初から導入準備を行っていたが、システムの本格運用は年度末になってしまったこと、導入初年度ということもあり、システム習熟度の関係から、逆に手間になってしまった面もある。効果が出るのはこれからと考えている。

●行政手続きのオンライン化も、今までの手段に加えてデジタル手続きを追加で実施している関係から、どうしても慣れた方法で手続きを行うことが要因と考えられる。ただ、オンライン化することで、住民の方の利便が向上し、かつ職員の仕事の効率化も期待できるため、事務の特性も意識しながら、より一層取り組みを広げていきたいと考えている。

○学校生活が楽しいと感じる児童・生徒の割合が若干減っている。引き続き取り組んでいただきたい。

○デジタル化は手間も省けて職員の業務効率が上がるので、いいことだとは思いますが、高齢者が利用することも多い。実際に予約がうまくできなかったといった声も聞いている。それこそ広報で頻繁に取り上げるとか、もう少しじっくり周知の時間を取ってもらえると良かったと思う。

●市の職員、委託先も含めてそういったことがないように気を付けたい。

今年度実施した 20 歳の集いでは、デジタルで申請の受け付けを行ったところ、大変スムーズに多くの方の申請を受け付けることができたといった事例もある。

手続き対象者の特性を見極めながら、必要な場合は手厚くサポートする等しながら、デジタル化を進めていきたい。

(5) 阿賀野市過疎地域持続的発展計画について

○お試し空き家暮らし体験事業の利用実績はどれくらいか。

●令和 5 年度は 5 件の利用があった。うち 1 世帯が 2 回使っているので利用世帯数としては 4 世帯となる。

(6) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業・物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業の報告について

質疑なし

(7) 阿賀野市総合計画(次期総合計画)について

質疑なし

(その他)

○笹神地区山間部だが、最近空き家が増えたのか怖いと感じる。国道 290 号は交通量もあり、いろいろな県外ナンバーの車を見かけるし、地域の高齢者も知らない車が来たと怖がっていた。また、集落と集落とが離れていることもあって、子供だけで行動させるのも、もし何かあると怖いなと思うと部分もある。

空き家対策を進めていただきたいのもそうだが、防犯対策にも力を入れていただけるとありがたい。